

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571800293		
法人名	五健有限会社		
事業所名	グループホーム太陽の郷		
所在地	小林市野尻町三ヶ野山608番地9		
自己評価作成日	平成22年9月20日	評価結果市町村受理日	平成23年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道より引込んだ田圃山林の緑豊かな自然に囲まれた静かな所に立地し、季節感を味わう鳥のさえずりや、折々に咲く花や草花を散歩しながら楽しむことができる癒しの環境です。近隣の住民の方とも交流があり協力支援を頂いている地域に密着したグループホームです。利用者家族はいつでも気軽に訪問されて、絆を大切にされるよう雰囲気作りを心がけています。利用者の方が楽しく暮らせるよう職員はいつも笑顔でコミュニケーションをとり、専門的な音楽療法も取り入れ五感の働きを活性化するように支援しています。一番の楽しみにされている食事は、職員で手作りの無添加の味噌で調理し、季節の食材をとりいれながら栄養バランスを考えた田舎料理等の献立表を作成して調理しています。また、利用者と一緒に餅を作ったり、地方の行事にちなんだお団子など職員が手作りで喜んで食べていただいたりしています。家族への連絡相談は密に信頼関係の下、利用者の支援をしています。家族への活動報告をお知らせと一緒に、利用者様近況お便りとして工夫し、毎月送らせていただいています。家族の皆様が楽しみにいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、利用者と家族・ホームと家族との絆を大切にし、「家族へのお便り」として毎月、写真入りで利用者一人ひとりの日々の生活の様子や健康状態等をきめ細かく個々に報告している。更には遠方に居住されている他の家族にも郵送しており、家族間での理解、協力が得られ、運営に対する意見や要望なども気軽に言ってもらえる関係ができています。また、運営者は自ら地域の行事に参加したり、隣近所とのつきあいに積極的に取り組んでおり、地域の方々と利用者が、一緒にお茶を楽しむなどの自然な触れ合いを通して、認知症の人に対する理解を深めてもらう機会をつくっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念には地域に馴染んだサービスの提供をかかげ施設内に掲示している。また、毎月職員が考えた理念を掲示して共有しながらサービスの向上に努め実践している	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、現状に合った理念を作り上げている。職員は利用者とのかかわりの中で、理念がケアに生かされているかを毎月のミーティング時に話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの庭や近隣の庭をお借りして外気浴をしながらお茶会をする時には、近隣の人と一緒にしてお茶して頂いて色んな話題で交流をしている。	日常的に散歩や買い物に出かけ、あいさつや言葉を交わしている。近隣の人に立ち寄ってもらってお茶を差し上げたり、季節の野菜を頂いたり、地域の人たちと触れ合う機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長自ら地域のスポーツ交流会に参加したり、近隣の清掃活動も行い、親睦を深めながら認知症の理解や支援方法の協力をお願いしている。地域の学生ボランティアの受け入れや、ホームのイベント時は参加を呼びかけ夏祭りではたくさんの家族や近隣の住民に参加をいただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、利用者のサービス状況や活動の報告をし、意見や要望助言を頂きサービスの向上に活かしている。また、これからの取り組み事項も話し合い安全なサービスに努めている。地域役員さまからは、イベントの協力支援を頂いたりしている。	会議ではホームからの報告とともに参加メンバーから意見や要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。出された意見や要望はサービスの向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険課には、出向いて情報交換や、事業所の問題解決に向け相談をしたり、ケアサービス状況などは運営推進会議で理解してもらっている。また、イベントの参加協力をいただき事業所の取り組み状況を把握してもらっている。	市担当職員は運営推進会議メンバーでもあり、ホームの運営に協力的にかかわってもらっている。ホームの行事にも参加してもらい、職員や利用者との交流も図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は門、玄関、居室全てにおいて鍵をせきずに生活をして頂き、身体拘束はしていない。夜間はセンサーで対応し、職員は利用者の身体拘束の知識を高め理解して拘束しないケアに取り組んでいる。	代表者及び全ての職員が、身体拘束の内容とそのへい害を認識している。利用者の行動に目配り・気配りしながら近隣の協力を得て安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修に参加したり、虐待防止のアンケートの依頼の協力をする中で理解しあい、全職員が虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議の中で資料を配布し、職員も知識の理解をしてもらうよう努めている。研修会にも積極的に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は見学して頂き、利用者や家族の不安や疑問点について親切丁寧に納得されるまで十分な説明を行っている。また、改定等の際も理解を得られるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の総会を開催し、会長さんを選出していた。また、家族の方はホームのイベントや家族交流会の参加や面会時に来られた時に、要望や意見を聞いたり相談をさせてもらいながらサービス運営に反映できるように努めている。	家族会の設置や毎月、利用者一人ひとりの家族に写真入りの便りを郵送する等、常日ごろから利用者や家族が意見や要望を気軽に表せる機会作りを心掛けている。出された意見や要望はサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案は、随時職員からミーティング等で聞きだしたり、全体会議等で話し合いをして運営に反映している。また、日頃から職員のいろいろな悩み等もいつでも聞くように努め、話やすい環境作りのため職員とのコミュニケーションを心がけている。	代表者は職員からの意見や情報をしっかりと取り入れ、一緒に話し合いながら職員が働きやすい環境作りに心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務状況や実績や努力を把握し、勤務表作成時には休暇希望をとり入れ、無理のない勤務表を作っている。職員との面談等では意見や提案を聴いたりして、やりがいのある働きやすい職場環境整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員のスキルアップを図るため、一人ひとりの介護歴や能力、ケア力量の把握をし、研修を受けてもらっている。研修後も職員への水平展開を業務の中で行い、事業所で資料を作成し認知症の勉強会や資格取得の支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と定期的に勉強会や研修を開催し、職員も参加することで交流を深めたり、サービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時には、家族から本人の状況をしっかり聞きだし、本人の立場になって、思いや困っていること、不安なことを、全職員が親身になって傾聴し、職員間も情報共有しあいながら本人を理解することに心がけ、1日も早く安心して生活してもらえる支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談される家族の立場になって、話をしっかり聞き理解するよう心がけ、電話での連絡相談報告をし、お便りの内容を充実したりしてコミュニケーションを図り信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意向をよく聴取して、本人が一番必要とするサービスの支援を見極め説明を行っている。正確な情報はお伝えしながら事業所として出来る可能な限りの対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームを家族の暮らしと捉え、一緒に生活している雰囲気作りに努め、職員は明るく笑顔のある支援を常に心がけ、利用者と共に喜びを共感しあったり、得意とすることなど把握し教えてもらう話題作りをし、感謝することで信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族との情報交換を行い、家族と相談しあいながら、本人の生活を共に支援し、苦しみや喜びを共に受け止める関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にきて頂いたときは、椅子やお茶などの用意をして、くつろげる雰囲気づくりをし、楽しい時間を過ごしていただけるようにしている。また、面会にきていただけるよう利用者と一緒にお見送りをしている。	利用者の友人、知人の来訪時には茶菓を差し上げ、ゆっくりくつろいだ雰囲気作りや再来訪していただけるよう声かけをしている。また、昔なじみの場所に花見に出かけたり、家族の協力を得て墓参りを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブルがおこらないよう、またストレスを抱え込まないテーブルの配置や配席に配慮しながら、リーダー的な方のお力をかりて、レクリエーションやくつろぐ時間を楽しく過ごしてもらえるよう努力支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所入院などされた時などは、お見舞いに行ったりして、家族に経過をお聞きしたりして、必要に応じ相談の支援にも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話を多くし、本人の立場にたった会話に心掛け、思いや希望を聞くように努めている。家族の意向も聞きサービスに活かしている。日々の生活の様子は、事業日誌や介護記録、担当者が月評価を行い、さらに利用者の評価まとめを全職員で話し合い記録したものを活用し、満足していただける介護サービスに努めている。	職員は、利用者との日々のかかわりの中で、声かけをして言葉や表情等から利用者の思いや意向の把握に努めている。難聴の方には筆談での会話を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	いままでの生活歴や生活習慣、生活環境、また、サービス利用の経過を把握して、ホームでの生活でその人の生きがいを見出せるようにするためどのような支援が必要か検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中に1日3回のバイタルチェック等で記録し、体調の変化を早く気づき的確に把握し、精神面の状況も記録に残し、職員同士の連絡をこまめにし、その人の過ごし方を無理のないよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人と家族からの意見を聞き、本人がよりよく暮らせるため、ケアのあり方について全職員で意見交換や気づきを出し合い検討し、結果をもとに、現状に即した無理のない計画を作成している。	介護計画は全職員が毎月、それぞれの意見やアイデアを出し合い、見直しを行いながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護に関する記録の様式を、職員が記録しやすく工夫して、日々のケアの実践記録、ヒヤリハットの記録、気づきを個別記録し、職員間の情報連絡記録も介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が家族と電話での会話希望されたり、身の回り品の希望についても家族に連絡をし相談しながら、可能な支援の対応に努めている。また、音楽療法やボランティア、実習生の受け入れによる刺激のあるサービスにも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防機関から、消防訓練に来てもらい指導を受けたり、連絡協議会の情報や、包括支援センターからの情報、救急救命法の研修や病院医師による勉強会に参加して、安全な暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望を大切に、いままでのかかりつけ医に継続して受けられるよう、連携協力関係を築きながら支援している。	本人や家族が希望する掛かりつけ医となっている。受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。受診結果に関する情報の共有もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックを3回行い記録での観察や本人の観察を、介護記録や利用者の体調の変化の気づきを、全職員が把握し訪問看護師さんに報告相談を行い、適切な看護と受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者の精神的ストレスを軽減するため、医療機関には本人に関する情報提供やケアについて看護師とも情報交換に努めている。家族とも相談し合いながら精神的ダメージが大きくなるようにして、早期退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、事業所ができる事の十分な説明や、医療提携を結んでいる協力病院が救急医療機関であることの説明をしている。家族も医療機関の設備のあるところでの治療希望が強いため、協力病院との連携を深めている。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り、本人、家族が納得できるよう、随時話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の勉強会には全職員が参加し、数人の職員も普通救命の講習を受け、事業所内での応急処置の勉強会も行っている。また、緊急連絡体制の確認や緊急時のマニュアルも作成し、いつでも見られるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所は毎月1日を防災の日と設定し、通報訓練避難訓練を実施している。消防機関にも消防訓練に来てもらったり、近隣の方にも協力員としてお願いしたりしている。さらに日頃から施設長自ら地域のかたと親睦を深め事業所の設備状況の協力もお願いをしている。	マニュアルを作成している。消防署の協力を得て定期的な避難訓練のほか、毎月、職員及び利用者を交えた避難訓練を行っている。地域の協力体制もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳と権利を守る個人情報保護法については勉強しあい、全職員が常に意識し、書類の保管や職員の守秘義務を守るよう確認しあっている。また、居室ではプライバシーを損ねない言葉かけの対応で排泄時もケアをしている。	職員は利用者を年長者として敬意を払い、一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保について認識している。利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言動は見られなかった。書類等の管理もしっかり行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に寄り添いながら言葉かけを行い、本人の思いや希望を聞き出せるよう心がけ、自己主張を尊重して可能な限り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムができており、その日の精神状態や体調を配慮しながら本人の希望を尊重し、本人のペースにあわせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	目的に応じた洋服の選択や動きやすい服の希望や好みも配慮し着用していただけるよう支援している。化粧品の希望も支援し、定期的に散髪にきてもらい一人ひとりの髪型に合わせて気持ちよく過ごしていただけるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみといつも利用者は食事時間を待ってくださる。能力に応じて食事前の台拭きのお手伝いや、簡単な食材の皮むきなどを一緒にしていただくこともある。競って食後の台拭きやお膳拭きのお手伝いをしてくださる。	食材は近隣から頂いた旬の野菜や手作りの味噌などを使い、利用者が日々の食事を楽しみにしている。テーブルでは気心の合う利用者同士となるように座席の配置にも配慮している。職員は、弁当を持参しており、休憩時間に食事をとっている。	ホームの特性を踏まえて、利用者と職員と一緒に同じ食事を楽しめる環境づくりの前向きな検討を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態を把握し、食べる量や水分摂取量、調理方法、それぞれの利用者にあわせ形や硬さなど工夫して食べやすくして食事をしていただいている。また、栄養のバランスも考え季節の野菜などをとり入れた献立表を作成して、調理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ずうがいや、義歯の洗浄、歯磨き等を促し、できない部分も支援しながら清潔に保つ確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄状況を記録し、利用者の排泄パターンや失禁等を把握して、トイレへの声掛けを行い、その人に合った自立支援を行っている。日中と夜間はオムツやパットを使いわけて、本人の精神的な負担の軽減に努めている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握し、トイレでの排泄を大切にしながら布パンツ、パット類も本人に合わせて利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、日々記録に残すことで、それぞれの健康状態を把握し、食材、おやつ等の工夫をして便秘予防に取り組んでいる。また、医療機関とも相談しながら薬の調整をして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯は、勤務体制の都合で決めているため、個々の希望には添えないところがある。入浴前のバイタルチェックでその日の健康状態をみながら、入浴順番も配慮し、本人に合わせた湯加減や入浴介助をして気持ちよく楽しんでいただいている。	入浴は利用者に無理強いすることなく、言葉かけや入浴順番など工夫しながら気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜眠れるよう生活のリズムを作る支援をし、布団の天日干しやこまめに清潔なシーツ交換を行い、居室の整理整頓に心がけ安心して気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬のファイルを作成し、すぐ確認ができるようにしている。誤薬が無いよう一人ひとり服薬の支援を行い、症状の変化の気づき等は記録に残し、経過確認しあうように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者は全員で歌を歌ったり踊ったりする楽しみや、その人が好きなことを役割とすることにより、この場所が自分は役に立っている喜びを味わい、また、職員が感謝の言葉を表示し、張り合いのある暮らしができる支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の個別の外出は困難だが、利用者の体調にあわせ近隣に花見散歩に出かけたり、遠出の花見に行ったり支援を行っている。近隣の庭におじゃましてお茶をさせてもらったり、近隣の畑まで散歩に行ったりしている。墓参りなどの希望等は家族の協力で外出してもらっている。	ホームの中庭で季節の花を見ながらお茶を楽しんだり、利用者の体調や気分に合わせて近隣の散歩、買い物に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理が困難な方が多く、家族との相談の上、所持してもらっていない。買物に行く時は家族に連絡して、了解を得て近くのお店まで行く支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも、本人の希望があるときは、家族への電話をする支援をしている。手紙を書くまでの能力は少ないため、簡単な年賀状などを書く支援をし投函まで支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはいつも光が入り、庭の花壇の花を見たりできる畳の空間もあるため、ゆっくりくつろいでいただけるよう、整理整頓をし季節の花を飾ったり絵を飾ったりしている。室温調節や湿度調節、換気にも心がけ快適な生活できるよう心がけている。	食堂兼居間には季節の花がさりげなく飾られ、昔なじみの音楽が流れており、気の合った利用者同士が歌を口ずさんだり、カレンダー作りをしている。また、昼食後はほとんどの方が畳の間で気持ち良さそうに昼寝している姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの畳では、思い思いに気のあった利用者同士で座られたり、一人でも好きな時横になられるようにしている。座布団等を用意して、居心地よく過ごしていただける支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で利用していた家具や使い慣れた物を持ってきていただき、好きな花や人形などを飾り、その人が安心して居心地よく過ごせるよう清潔にも努めている。	居室はきれいに掃除され、寝具やいす、家族の写真、携帯ラジオ等、思い出の品々が持ち込まれている。利用者はラジオを聴いたりして居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はあらゆる場所の安全に配慮し、生活しやすいようにトイレ表示も大きくしてわかりやすい工夫をしている。		